論 文 の 内 容 の 要 旨

論文題目　　ファフルッディーン・ラーズィーの宇宙論

氏　　名　　青柳　かおる

イスラーム・スンナ派神学者、ファフルッディーン・ラーズィーFakhr al-Dīn al-Rāzī(d.1209)の宇宙論、つまり現象界（物質界）と不可視界（霊界）という２つの世界の包括的議論にみられる哲学と神秘主義的要素を分析し、神学・哲学・神秘主義の折衷の様相を考察した。さらに、神学者ガザーリーAbū Ḥāmid al-Ghazālī(d.1111)の宇宙論と比較しながら、イスラーム思想史におけるラーズィーの宇宙論の特徴を明らかにした。

ラーズィーの宇宙論においては、存在者分類に哲学の影響がみられた。ラーズィーは、現象界については、原子と偶有の合成である物体とし、従来の神学的原子論を採用しているが、不可視界については、位置を占めず、位置を占めるものに内在しない哲学的非物質的実体とした。さらにラーズィーは、２つの世界の具体的な内容について列挙し、それぞれが様々な階層を持つとする。

次に、ラーズィーの神秘主義的宇宙論について、ミゥラージュ（預言者ムハンマドの天界飛翔の物語）解釈を中心に検討した。ラーズィーによれば、現象界と不可視界には相関関係があり、ファーティハ（コーランの開扉章）が 2 つの世界を結びつけている。ラーズィーは、人間霊魂の上昇を霊的ミゥラージュによって説明し、人間霊魂が現象界から不可視界を通して神に至るとした。さらにラーズィーは、ファーティハが唱えられる礼拝を神秘修行と解釈して霊魂の上昇について論じた。霊的ミゥラージュによって人間は上昇し、神に達し、神との合一に至る。ラーズィーは、神学的原子論と哲学的離在実体の融合した世界観の上に、神秘主義を取り込もうと試みた。

ガザーリーは哲学の影響を受けており、流出論は批判したが、現象界とは次元の異なる霊的実体を、不可視界として自らの思想に取り入れた。しかし公式的立場である神学的議論においては原子論を採用し、議論が統一されていない。ガザーリーは神学的原子論の世界観と、哲学的存在者を取り入れた神秘主義的世界観を統合しようとはしなかった。ガザーリーの関心は、不可視界を存在者分類的に論じることではなく、霊魂上昇のための現象界と不可視界の相関関係であった。ガザーリーの神秘主義的宇宙論における思想潮流を統合していく方向には、神学は含まれず、神秘主義に哲学が部分的に取り込まれている。

ラーズィーは、ガザーリーの神秘主義的宇宙論を、神学的議論に戻して再解釈することによって、神学・哲学・神秘主義を統合した。同時代のイブン・アラビーIbn al-`Arabī(d.1240)の存在一性論などにおいて、一層の思想的統合が始まった状況の中で、ラーズィーの宇宙論における存在者分類とミゥラージュ解釈は、神学の枠内で、可能な限り哲学と神秘主義を取り入れていく立場をあらわしていると言えよう。